

街づくり事業について感ずること

田中滋夫
(株)都市デザイン 代表

東日本大震災以来、手伝ってきた石巻の復興まちづくりでの一つの再開発事業が概ね完成しつつある。川湊石巻の発祥の地であった地区で、河川堤防の新設、旧北上川にかかる橋の架け替えなどとあわせての街の再生が進められた。商工会議所、まちづくり協議会など地元側にたって行政との調整を手伝い、その中から生まれた再開発事業を担当していたものである。

東日本大震災の復興事業は、資金的にはその殆どを国の復興交付金に頼っている。その資金システムは既往の個別事業制度（区画整理事業、市街地再開発事業など）をベースに組み立てられている。国庫補助事業の仕組みであり、個別事業ごとに永年かけて細かくマニュアル化された要綱等によって運用されているものである。平時でも事業毎の専門家でないと活用しにくい複雑な組み立てになっている。震災復興という緊急の事態に基本的に対応しにくい構造を有していた。震災後、多くのところで、地元、行政、専門家が一体となって、復興に向けて真剣に討論を重ねたにもかかわらず、事態が進むにつれて、次に、その個別事業制度が持つ限界の中で復興のあり様を選択していかざるをえなくなった。

その様な中で、行政とはそういうものだとか割り切って、粘り強くなんとか事業に取り組み、まちの復興を進めようとする地元有志の人たち、厳しい環境の中で現場を担当する行政職員の勤勉さにはいつも頭が下がる思いであった。この様な人たちの努力で粘り強く、何とか制度の制約をくぐり抜けて多くの復興事業は成果に結びつけられていったのである。

縦割り行政をベースとした細かく分かれた個別事業制度と、その表裏にある著しく進みつつあるマニュアル化行政の中で、かなり多くの時間と手間が無駄に費やされたことは否めない。又、事業間の相互調整の不足が集中的な工事発注を呼び、建設費の著しい高騰を招いたことも否めない。

民間の立場で都市計画をやろう。できれば計画だけでなく運営を見とどけるまで現場でやっという事務所を開いたのが約45年前。その当初から、総合技術であるべき都市計画にあっても縦割りの強さに異和感を感じたのを覚えている。その後、高度成長、バブル崩壊を経ても、改善されるよりは一層硬直化が進んでいると強く感じている。今回の復興支援では、その弊害は只事ではないところまで来ているとも感じた。

粘り強く、きめ細かく熱心にまちの現場で取り組んでいく多くの人の存在は、日本のまちづくりでの大きなとりえであろう。他方、まちづくり事業における制度上の縦割り、マニュアル化行政については、相当思い切った打開が求められている所まで来ているのではあるまいか。

(社)未来構想P F 理事

WS研修

現在、以下に示す2つのWS研修を開催している。いずれも12月までで、それぞれ特徴のあるテーマとプログラムで、参加者にとって実りある研修となることが期待される。

① 調査計画段階での施工計画

課題：藤沢駅改良

調査（構想）段階において、短期間で概略の施工計画を策定し、概算工事費と工期を算出するためには、どのような手順で業務を進めるか実践する。

メンバーは9人、7回で完結。先日は現地調査を実施した。

② 仙台地区での初のWS研修

課題：地域と生きる

地域に向き合い、地方創生の「核」となる人材を創出するため、地方創生の検討を行う。またJR東北工事事務所の潜在能力を活かした系統横断的な取組を行う。

メンバーは15人（建築・土木・電気）、3回で完結。

カリキュラム

- 第1回 ・未来構想PF山本会長特別講義
・今後50～100年後、東北地方はどのようなになっているか
- 第2回 ・東北地方のあるべき姿
- 第3回 ・東北地方が生き残るためには
・課題図書「地方消滅と東京劣化」を読んで

参加者は、各回、課題についてA4一枚（裏表可）に意見をまとめ、相互に発表し質疑や提案を繰り返す。意見や提案を集約することはせず、各自が最終ステップまでに独自の提案を行う。毎回オブザーバーから忌憚のない意見や感想があり、終了後の懇親会を含め有意義な時間を過ごしている。

VOICE（会員の声）

真田丸と昌幸夫人

清水 満

JR東日本 構造技術センター 次長

今年のNHKの大河ドラマ「真田丸」もいよいよクライマックスを迎えています。上田出身の私としては、この1年間あまり詳しく知られていなかった真田氏のことが放映されることはうれしいことでした。ドラマに出てくるシーン、特に上田周辺が出てくる映像、周辺の山々の景色が

正確で、さすがNHKと感心しました。千曲川から見た上田城のシーンでは、その背後に見慣れた太郎山と東太郎山が連なり、東から攻めてくる徳川軍を上田城から見るシーンでは、遠景に烏帽子岳、殿城山等々、見慣れた山々が正確に描かれておりこれもまたうれしくなりました。

ドラマの真田丸では、上杉との戦いや徳川との2度の上田合戦が放映され、砥石城や矢沢城などの上田城の支城が出てきました。どの城跡も小学生の頃に遠足などで出かけたことがあり、尾根が平らになっていることから楽しい遊び場でした。上田の周辺の山には、いたるところに城や砦の跡があります。我が家の北側にそびえる山、太郎山の尾根にも花古屋城とよばれている城跡があり、子供の頃山登りの帰りにそこの石垣や土塁で遊びました。この花古屋城から東を見ると、ちょうど砥石城の尾根が見え、南を見ると眼下に上田城が見えます。この花古屋城は戦いのための城というより、戸石城と上田城の連絡のための砦のようなものであったのではと思います。

この城と上田城との間、上田市街の北のはずれに大輪寺というお寺があります。先週、来年の両親の法事のため、大輪寺へ打合せに行ってきました。この寺には真田昌幸の奥さん、寒松院（ドラマの中では薫）の墓があります。住職に大河ドラマ効果で観光客も増えたのではと聞いたところ、あまり変化はないとのこと。やっぱり薫役の高畑淳子さんのキャラクターではイマイチだったのでしょうか。でも住職の話では、寒松院は高野山に流された昌幸、幸村のために支援に尽力していたとのこと。そして昌幸の死後その後を追うように亡くなっており、自害したという説もあるとのことです。

住職との打合せの後、久しぶりに寺の後ろのちょっと小高いところにある寒松院のお墓に行ってみました。お墓には観光客が二人来ており、花と6枚の5円玉で造った六文銭がいくつも並んでいました。今まで気にも留めていなかったのですが、お墓は正確に上田城を向いて立っており、真田家の将来を見守っているように感じました。



大輪寺



寒松院（昌幸夫人）の墓

NEWS

■最近の気になるニュース

岩井有人さん（JR 東日本東京工事事務所）の Facebook 「今朝の気になる記事」 より抜粋させて頂きました。

① パリ協定きょう発行、温暖化対策 新たな枠組み（11.04）

2020 年以降の地球温暖化対策「パリ協定」が 4 日発行する。05 年に発行した京都議定書に続く温暖化対策の国際合意で、先進国に加え、中国やインドなど途上国が温暖化ガス排出抑制に取り組む枠組みは初めてとなる。

② 日本の人口 96 万人減の 1 億 2709 万人 15 年国勢調査（10.27）

総務省は 2015 年国勢調査で確定値を公表。日本の総人口は 1 億 2907 万 5000 人で、10 年前の前回調査と比べ 96 万 3000 人減った。日本人に限ると 107 万人減の 1 億 2428 万 4000 人。

③ サウジの都市開発を支援（10.21）

政府は来夏までにサウジアラビアの経済改革を支援するための協力計画をまとめる。都市開発からエンターテインメント産業の育成まで幅広い分野を対象とし、石油依存からの脱却を後押しする。日本の技術力を訴え、日本企業の商機を広げる狙いも。

④ その他

- ・マレーシア高速鉄道「日本の入札参加期待」（11.15）
- ・トランプ氏 改革 100 日計画（10.11）
- ・インド鉄道支援 人・技術が軸、首脳会談で表明（11.07）
- ・「留学後に日本で就職」最多 1 万 5657 人（10.29）
- ・JR 九州上場 初値 3100 円（10.26）
- ・「タワマン節税」けん制、高層階増税（10.25）
- ・会話理解、日本人は「聞く」英米人は「見る」（10.17）

■計画・交通研究会が会報 2016-9 を発行

◇Opinion

- ・首都圏の三環状道路の概成 ～ネットワーク活用の時代へ～

東日本高速道路（株）常務執行役員 遠藤元一

◇石井国土交通大臣に聞く（前半） ゲスト : 石井啓一（国土交通大臣）

パーソナリティ：森地茂（政策研究大学院大学教授）

アンカー : 中山かおり（清水建設）

企画 : 杉原克郎（清水建設）

◇News Letters

- ・春の現地見学会「羽田空港アクセスはどう変貌するのか～新ルートを歩く～」

平成 28 年 5 月 20 日実施

◇Projects 北海道新幹線その2 文責：鳩山紀一郎（東京大学）取材：茶木環（ライター）

◇Column

・私の思い出 歴史のロマンを感じる一コマ (株)大林組執行役員 埴 守幸

◇Backyard

・平成28年度 秋の見学会のお知らせ (2016.10.06~07)

名古屋駅周辺スーパーターミナル構想、ニューブリッジ、新名神高速道路建設現場、
介助犬総合訓練センター（シンシアの丘）など

・平成28年度第4回イブニングセミナーのお知らせ

テーマ : 次世代型商空間の方向性

話題提供者：三井不動産S&E研究所 主任研究員 佐々木誠

日時 : 平成28年12月7日(水) 17:30~

場所 : 日本大学駿河台キャンパス1号館CSTホール

*詳細は計画・交通研究会事務局にお尋ね下さい。 jimukyoku@keikaku-kotsu.org

■シビルNPO連携プラットフォーム（CNC P）が会報第31号を発行

◇巻頭言 建設分野でのソーシャルビジネスに若き「ソーシャルイノベーター」の参画を夢見る
(株)日刊建設通信新聞社 社長 和田 恵

◇コラム 「まちづくり」から「まちつかい」へ

茨城の暮らしと景観を考える会 代表理事 三上 靖彦

◇トピックス NPOファイナンス(3) 社会的価値基準について

NPOファイナンス研究会 有岡 正樹

◇会員紹介 NPO法人 電線のない街づくり支援ネットワーク

◇部門活動紹介 地域活動推進部門 「インフラメンテナンス国民会議に向けた活動(その2)
自治体インフラメンテ研究会

◇会員からの投稿 「鉄腕アトム」が牽引した未来社会

(株)サンエコセンター 事業部長 小重 忠司

◇NEWS 第1回目の「CNC Pアワード2016授賞式」開催

★ベスト・プラクティス部門(優れたソーシャルビジネスを展開)

NPO法人 道普請人

「土のう工法の普及活動を通じた未舗装道路整備のインクルーシブビジネス化」

★ベスト・アイデア部門(優れたソーシャルビジネスとしての事業企画)

NPO法人 シビルサポートネットワーク

「地方自治体のインフラの維持管理を支援する有限責任事業組合」

◇イベントのご案内

ソーシャルビジネスで注目の「ソーシャルインパクト・ボンド(SIB)」講演会の案内

日時：平成28年12月12日18:00~

場所：明治大学駿河台キャンパス(詳細未定)

*詳細は CNC P事務局にお尋ね下さい。 info@npocncp.org

今月の国際比較データ

① おもな国の民間航空輸送量（定期輸送）

出典：日本のすがた 2016（日本国勢図会ジュニア版）公益法人矢野恒太記念会

⑧おもな国の民間航空輸送量（定期輸送）(国際線と国内線の合計)

	旅客輸送 (億人キロ)			貨物輸送 (百万トンキロ)		
	2013	2014*	2014* (%)	2013	2014*	2014* (%)
アメリカ合衆国	13 525	13 878	22.6	37 114	38 225	19.7
中国 ¹⁾	5 627	6 308	10.3	16 054	17 823	9.2
アラブ首長国連邦	2 833	3 174	5.2	14 082	15 624	8.1
イギリス	2 595	2 752	4.5	6 032	5 919	3.1
ドイツ	2 178	2 246	3.7	7 334	7 183	3.7
フランス	1 787	1 781	2.9	4 327	4 151	2.1
ロシア	1 624	1 764	2.9	4 249	4 414	2.3
カナダ	1 526	1 627	2.6	1 946	2 084	1.1
日本	1 508	1 581	2.6	7 716	8 662	4.5
トルコ	1 226	1 411	2.3	2 349	2 714	1.4
オーストラリア	1 387	1 401	2.3	1 985	1 909	1.0
世界合計	58 062	61 445	100.0	184 969	194 012	100.0

国際民間航空機関しらべ。国際民間航空機関に加盟する191か国の統計。貨物には郵便物をふくみません。合計にはその他の国をふくみます。*ざんてい値。1)(台湾)、(香港)、(マカオ)をふくみません。

② 男女平等ランキング

出典：朝日新聞（2016.10.26）

男女格差 日本 111 位に悪化、G 7 最下位。

経済活動への参加と機会、政治への参加、教育、健康と生存率の 4 分野の計 14 の項目で、男女平等の度合いを指数化して順位を決める。

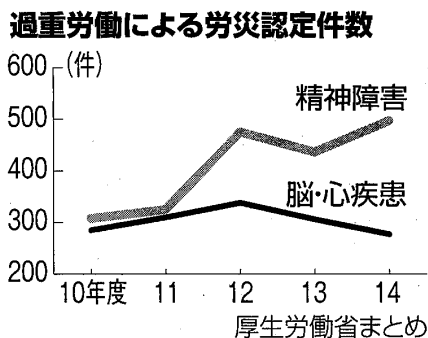
日本は教育や健康の分野では比較的格差が小さいが、経済と政治の両分野は厳しい評価。



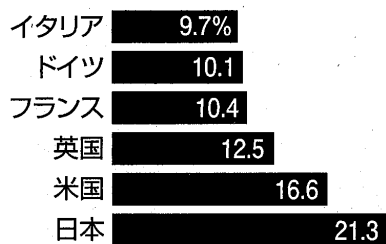
③ 長時間労働

出典：朝日新聞（2016.05.12）

日本は長時間労働者の割合が先進国でも高い。その背景には、従業員をできるだけ解雇せず社内に抱える傾向に加え、「仕事の範囲があいまいで、自分の分が終わっても他の人を手伝わされ、新たな仕事も割り振られやすい」という。



日本は長時間労働者が多い
週49時間以上働く人の割合



労働政策研究・研修機構まとめ

PF書店

現在、東京と仙台でWS研修を実施しています。研修では「課題図書」を指定し、研修の最終回で各自が感想を述べることとなっています。今回はWS研修の課題図書として候補に挙がった3冊を紹介します。なお最終的には、仙台が①の地方消滅と東京劣化、東京が③の担い手3法まるわかりとなりました。

① 地方消滅と東京劣化 増田寛也・河合雅司共著 ビジネス社

地方の実情を知り尽くす増田寛也と、少子高齢化問題の第一人者河合雅司の対談を中心にまとめられており、東京一極集中の危険性と限界を再認識し、地方消滅という危機的な未来について、その対策と方向性を示している。人口減少社会の行く末を不安がるのではなく、むしろポジティブに具体的な解決策を考え、その実現に向けて一つ一つ地道に取り組むことが大切だとし、日本を再生する8つの提言が印象的である。



② 希望のレール（若桜鉄道の地域活性化装置への挑戦） 山田和昭著 祥伝社

IT業界出身でマーケティングのプロ、しかも筋金入りの鉄道ファンという著者が、1日10往復という鳥取県の小さな地方鉄道会社の公募に応じて社長となった。新社長は、地方に存在するさまざまな資源を引き出し、数々のイベントを発案実行し、鉄道による地方創生にアプローチしてきた。そんな経緯が素直に記述され、最後に、人をつなぐ・地域をつなぐ・時代をつなぐ、をキーワードに、レールの先には希望が見えると結んでいる。



③ 担い手3法まるわかり～公共工事の発・受注はこう変わる～ 日刊建設通信社

改正品確法（公共工事の品質確保の促進に関する法律）と建設業法、入契法（公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律）が2014年通常国会で成立、6月に施行された。これまで基本理念に据えていた「公共工事の品質確保」に加え、「担い手の中長期的な育成及び確保」「適正価格での契約」「多様な入札契約制度」「地域維持」も新たに示され、今回改正された3法は「担い手3法」と呼ばれるようになった。

Q&Aなどもあり分かり易く解説されており、発注者も受注者も一度は目をとおして欲しい一冊である。



事務局通信

～ ● 今月の写真コーナー ● ～

JR東日本構造技術センターでは、家族やOBを含め、毎秋「芋煮会」を開催している。今年も去る11月3日、秋晴れのもと約100名が参加し、盛大に“秋”と“鍋”と“お酒”を楽しみました。



(写真提供：JR 東日本構造技術センター)

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
 連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 携帯：090-9150-8613 メール：info@miraikoso.or.jp
 〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28